



(Photo:松元 涼子(環境フォトコンテスト))

第5章

重点プロジェクト

2050年を展望した、「2031年度の鹿児島市の姿」の実現に向けて、今後10年間で特に注力して取り組む事業を重点プロジェクトとして定め、多様な主体と連携・協働しながら取組を推進します。

1. 重点プロジェクトの考え方

「重点プロジェクト」は、以下の考え方に基づき、設定します。

- 基本方針の「保全」、「促進」、「活用」を進める上で重要なプロジェクトであること
- 「取組の横断的視点（連携・協働、長期的）」や「取組の段階（気づく、考える、行動する）」、SDGsの考え方を取り入れたプロジェクトであること
- 戦略の行動計画をリードするプロジェクトであること
- 継続的な効果を発揮するプロジェクトであること

2. 重点プロジェクト

重点プロジェクト

1

生物多様性を保全する行動の普及啓発プロジェクト

(気づき促進プロジェクト)



(概要)

生物多様性の保全に向け、取組を進めていくためには、生物多様性の意味や現状について知り、理解を深め、私たちができることに「気づく」ことが大切です。

本プロジェクトでは、これまでの「生物多様性とは何か」を知ってもらうための普及啓発に加え、市民や事業者へ生物多様性に配慮したライフスタイルや事業活動などの具体的な取組について、より分かりやすく、普及啓発を行います。

(取組例)

- ・普及啓発パネル、リーフレットなど、普及啓発ツールの作成
〔生物多様性の意味や本市の生物多様性の特徴、私たちが受けている自然からの恵み、生物多様性に配慮したライフスタイルや事業活動などを分かりやすく紹介するパネルやリーフレットなど、普及啓発ツールを作成し、講座やイベント等などで活用します。〕
- ・デパートやスーパー等と連携した普及啓発
〔5月の「国際生物多様性の日」を契機として、デパートやスーパー等と連携し、地元の農林水産物やその加工品、生物多様性の保全に配慮した製品（環境ラベル商品など）のPR、商品紹介特設ブースの設置などにより、生物多様性への負荷が少ないライフスタイルを促進します。〕
- ・かごしま水族館、平川動物公園、科学館、図書館、観光農業公園、かごしま環境未来館などの関連施設や事業者、市民活動団体等と連携した一斉イベントの実施
〔かごしま水族館、平川動物公園、科学館、図書館、観光農業公園、かごしま環境未来館などの関連施設や事業者、市民活動団体等と連携し、企画展やイベントなどを一斉に実施し、楽しみながら生物多様性について知り、触れ、親しめる機会を提供します。〕

(効果)

- ・生物多様性の認知度のさらなる向上と、その意味や価値についての理解促進
- ・生物多様性に配慮した製品やサービスの提供による消費の促進

重点プロジェクト
2

多様な主体の連携による活動の展開プロジェクト

(考える促進プロジェクト)



(概要)

生物多様性の保全の取組は、市民や事業者、市民活動団体など多様な主体が、それぞれの強みを活かし、他の主体と連携することで、より一層効果的なものとなります。

本プロジェクトでは、生物多様性の保全のために、多様な主体が連携して、「考え」、取り組む仕組みづくりを行います。

(取組例)

- ・情報の収集と発信
〔生物多様性に関する各種のイベントや研修会に関する情報、自然観察会などの講師の情報、事業者の取組例などの情報を集約して一元化し、ウェブサイトやSNSなどさまざまな媒体を通じて発信します。〕
- ・モデル事業の実施
〔多様な主体が連携・協働する契機や活動する機会を提供するため、モデル事業を実施し、その取組を広げていきます。〕
- ・人材バンクの構築と活用促進
〔地域や事業者等の活動へのアドバイザーや研修会の講師、生物多様性の保全に関係する自然・社会・文化などさまざまな分野の専門家など、人材を登録する人材バンクを構築し、活用を図ることにより、さまざまな主体が生物多様性について考える機会の提供を支援します。〕
- ・意見交換の場の提供やワークショップの開催
〔市民や事業者、市民活動団体等さまざまな主体が生物多様性保全の取組などについて意見交換できる場の提供や、若い世代などが生物多様性について考えるためのワークショップ等を開催します。〕

(効果)

- ・生物多様性の保全に取り組む人材の育成と各主体の活性化
- ・連携・協働が図られることによる効果的な取組の促進

重点プロジェクト
3生物多様性の保全活動と恵みを実感する
体験プロジェクト

(行動促進プロジェクト)

(概要)

生物多様性の保全と持続可能な利用のために、食料や木材など私たちの生活に欠かせないさまざまなものが生物多様性の恵みであることに気づき、大切にすることを高め、「行動」へとつなげることが必要です。

本プロジェクトでは、生物多様性の恵みや重要性を実感できるよう、自然を活用したさまざまな体験の機会の充実を図ります。

(取組例)

- ・自然の恵みを実感できる体験機会の提供
〔モウソウチクの駆除活動やとその竹を使った竹製品作りの体験や、山歩きと野草や山菜などの採取と試食、草花遊びなど自然素材を楽しめる昔の遊び体験イベントなど、生物多様性について考え、恵みを実感できる体験の機会を提供します。〕
- ・「遊べる森」「恵みの森」の紹介と活用
〔市民がさまざまなかたちで自然とふれあったり、育んだりすることができる「遊べる森」や「恵みの森」を紹介したり、講座等で活用します。〕
- ・自然遊歩道などを活用した自然観察会の開催
〔自然遊歩道などで自然観察会を開催し、生物多様性について身近に感じ、考える機会を提供します。〕
- ・農林水産業の体験機会の充実
〔自然の恵みを直接的に実感できる農林水産業の体験を通じ、生物多様性を育む自然や生きものを大切にしながら私たちが暮らしていくためにできることを学ぶ機会を提供します。〕

(効果)

- ・自然に対する親しみや大切にすることを意識の高揚
- ・自然とのふれあいや体験機会の充実などによる自然保護活動への理解促進

